

情報リテラシー教育におけるプレゼンテーションのピアレビュー分析： 医療福祉系短期大学における事例

重田崇之¹⁾, 板谷道信²⁾, 福見敦²⁾, 名木田恵理子¹⁾

1) 川崎医療短期大学一般教養

2) 川崎医療短期大学放射線技術科

(平成28年10月15日受理)

Analysis of Student Peer Review of Presentations Performed
in Information Literacy Class at Kawasaki College of Allied Health Professions

Takayuki SHIGETA¹⁾, Michinobu ITAYA²⁾, Atsushi FUKUMI²⁾, Eriko NAGITA¹⁾

1) *Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions*

316 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-0194, Japan

2) *Department of Radiological Technology, Kawasaki College of Allied Health Professions*

316 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-0194, Japan

(Received on October 15, 2016)

抄 録

「情報科学実習」科目で実施した「総合演習課題」において学生が回答したピアレビューの内容を分析し、学生のプレゼンテーションにおける相互評価の基準の明確化を試みた。ピアレビューで回答のあったコメントを元にKJ法(蓄積された情報から関連するものを整理し統合する手法)による分類を行った結果、17の小カテゴリーが判明し、それらは大きく「発表内容に関する」「発表態度に関する」「スライドの出来に関する」「質疑応答・その他」の、4つのカテゴリーにまとめられた。最も多くのコメントが「発表内容に関する」カテゴリーであったが、グループごとの成績とカテゴリーを比較した場合、「スライドの出来に関する」カテゴリーが上位グループに集中していた。学生間の相互評価で高評価を得るためには、発表内容の精査はもちろん、ある程度のスライドのデザイン性が必要になることが分かった。

キーワード：情報リテラシー, Moodle, 協調学習, KJ法

Abstract

To enhance students' communication ability and learning effects, we introduced collaborative learning into the class of 'Practice of Information Literacy,' and let students do group presentations and peer reviews. We analyzed the peer review comments posted by students, and tried to clarify evaluation standard of the student presentation. The comments responded were classified into 17 small groups by KJ method, and furthermore, they were categorized into four major groups; comments about "content of the presentation," "announcement attitude," "quality of the slides", and

“questions and answers and others”. More than half of the comments belonged to the category of “content of the presentation,” while much more comments on “quality of slides” seen in the highly rated groups. We confirmed that in mutual evaluation, students focus attention on not only the content of the presentation but slide design.

Key words: information literacy, moodle, collaborative activities, KJ method

1. はじめに

川崎医療短期大学（以下、本学）はチーム医療の担い手である看護師、診療放射線技師、臨床検査技師等の養成機関であることから、情報の共有や伝達に必須のコミュニケーション能力と応用力を持った人材の育成を特に重視している。さらに近年、コミュニケーション能力や応用力を重視した教育の実践が求められようになり、文部科学省の中央教育審議会大学教育部会においても、アクティブラーニング等双方向的な授業が推奨されている。

我々は、こういった社会的要請を背景に、講義と演習による一方向的な授業体制をとっていた「情報科学実習」において、コミュニケーション能力の育成を視野に入れたグループワークとインタラクティブな授業活動を取り入れることによって、情報処理能力の向上を図ることを考えた。稗田ら¹⁾の報告においても、グループによる協調学習が情報教育に一定の効果があるということが示されている。

我々は授業設計として、情報処理技術および医療機器端末操作能力を習得するためのコンピュータリテラシー学習に、LMS (Learning Management System: 学習管理システム) を活用したグループワークを組み込み、成果を相互評価させることにした。現在、相互評価を行う基準は各大学において様々であり、明確な基準は設定されていない。先行研究として池村²⁾が「内容」「資料」「発表」の分類からルーブリックを作成し、評価を行っているものの、その評価は定まってはいない状態である。

本研究では、学生がグループワーク内で相互評価を行った自由記述を分析することによって学生の評価基準を明確にし、協調学習の導入において必要な要件を明らかにする。

2. 対象および方法

2.1. 対象

本学放射線技術科1年生56名（内訳 男21名女35名）を対象とし、彼らが2015年に受講した「情報科学実習」の中の総合演習課題において、LMSに記入した自由記述を研究材料として分析し、協調学習として行っている総合演習課題の評価の傾向を調査した。

実施に際して、対象者には研究の目的と意義を説明し、研究への参加は自由意思に拠るものであり、不同意の場合も成績には影響しないこと、結果は匿名化されプライバシーが侵害されることはないこと、得られた結果は論文発表されること等を説明したうえで、同意を得た対象者に同意書を提出してもらった。本研究は川崎医療短期大学倫理審査委員会の承認(平成27年9月14日認可)を受けている。

2.2. 学習環境

本学における情報リテラシーおよびコンピュータリテラシー教育は、主に本学に設置している情報教育室を使用して行っている。情報教育室は2013年から、80台の情報端末と1台の教員用端末、2機のプロジェクタおよび2台のスクリーン、3台のカラーレーザープリンターを設置している。学習環境はOSがWindows

8.1. 講義内で使用しているソフトウェアとしてMicrosoft Office 2013となっている。

講義内で使用するLMS環境については、本学においては2008年から全学的に利用するLMSとしてMoodle (Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment)を導入している³⁾。LMSサーバはインターネット上に公開しており、大学内外で使用できる。バージョンはブラウザでの動作安定性を重視し、導入時から1.9.10を採用し、現在まで使用している。なお、本学のMoodleにおける主な用途は、教材配布や課題提示などの講義補助利用や動画eラーニング、国家試験対策などのテストツール、全学的なアンケートへの使用などである。

2.3. 授業デザイン

「情報科学実習」は、本学放射線技術科1年次生対象に実施されている専門基礎科目であり、「アプリケーションソフトの使用を通じて情報処理技術を習得する」ことを授業目標としている。受講生は例年50～60名で、教員3名が

担当している。この授業について、2013年度から協調教育導入を試み、アンケート結果などのフィードバックをもとに、毎年講義の設計を行っている。図1に2015年の情報科学実習授業デザインを示す。

1年次前期2回、後期14回のスケジュールで行う。1回の授業は前半90分と、後半55分の計145分で構成される（途中で適宜休憩を含む）。前期の2回ではイントロダクションとして、学習環境の説明および端末操作の説明、タイピング指導、情報モラル教育を行う。後期の前半9回でアプリケーションソフト(Microsoft Word, Excel, PowerPoint)の操作技術および応用を目的とした演習問題を実施する。演習問題は学生に毎回、講義のテーマに沿った課題を与え、基礎課題は講義時間内に、応用課題は定めた期限内(次回講義までなど、教員によって異なる)に提出させる。各ソフトの講義時間は前年度の授業アンケートなどを参考に検討し、2015年度はWord2回、Excel4回、PowerPoint3回とした。最後に、後期後半5回で総合演習課題をグ

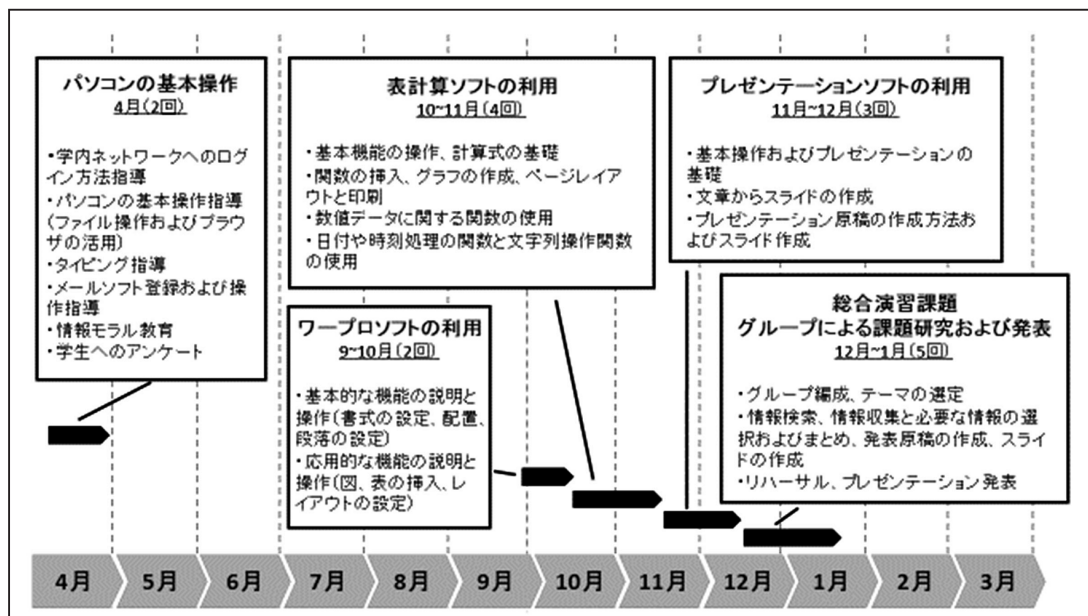


図1 情報科学実習の流れ

ループワークによる協調的学習を導入して実施する。講義終了時に講義受講後の意識調査アンケートをMoodleで実施する。

2.4. 授業方法（協調学習導入）

演習の総括としての総合演習課題には協調学習を導入しており、「グループによる課題研究」および「グループによる課題研究発表」によって構成される。前半の3回を使って「グループによる課題研究」を、後半の2回を使って「グループによる課題研究発表」を行う。図2に総合演習課題の流れを示す。

学習グループは、教員が3～5名ずつランダムに分けて指定する。2015年度は各グループ4名ずつの14グループで編成した。成績評価は教員による総合評価（発表原稿、スライドの出来栄え、プレゼンテーション、質疑応答）に、プレゼンテーションを見聞した学生によるピアレビュー結果を加えて行う。

「課題研究」では、教員が指定したテーマの中から1つを選択し、発表時間に沿ってプレゼン

テーション原稿および発表スライドを作成する。総合演習課題におけるテーマは、一般常識関連、時事ニュース関連、物理・科学に関するトピック、地域に関する事項から、毎年の学習環境および時代のニーズを考慮して教員が選定している。図3には2015年の提示テーマ一覧を示す。

発表原稿はインターネットや図書館の書籍から情報を検索・閲覧し、Wordで作成する。教員による文章の添削は学生から質問があった場合のみ応じるが、基本は学生に任せる。この原稿を元にPowerPointを使用して発表スライドを作成する。スライドで使用する図表はなるべくExcel等を使用した自作を促し、自作が難しい場合のみ出典を明記したうえで引用する。文章や図表を引用した文献およびWebサイトはスライドの最後の一覧で表示させる。

「課題研究発表」は、作成した発表スライドを元にグループごとに2回に分けて発表会形式でプレゼンテーションを行う。発表する順番はランダムとし、発表前にくじ引きで決定する。

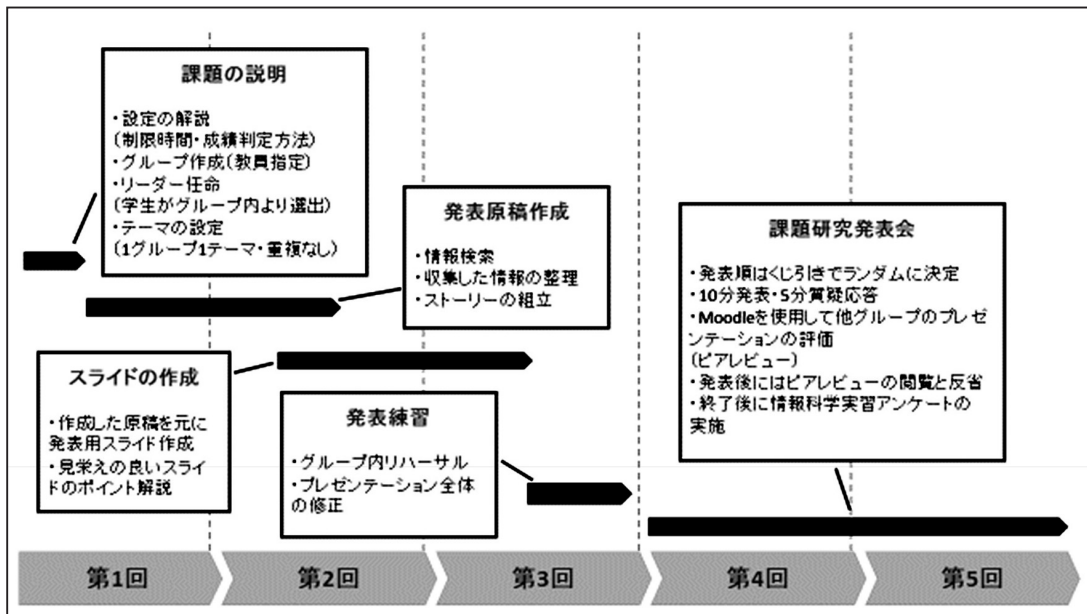


図2 総合演習課題（グループによる課題研究および課題研究発表）の流れ

発表時間はプレゼンテーション10分、質疑応答5分としており、プレゼンテーションが発表時間（15分）を超えた場合は強制的に終了としている。発表グループ以外の学習者がMoodle内に設置したコースを使用して、ピアレビューを行う。ピアレビューの画面を図4に示す。レビューは3段階による基礎評価に加え、自由記述で具体的な指摘を行う。評価に関する事前説明として、基礎評価は「発表を聞いた率直な評価」とし、自由記述はその評価対象を採点した際に着目した、「特筆したポイント」をなるべく具体的に記載するように指示を行っている。発表後は教員がグループごとにレビュー結果を返

消費税	マイナンバー制度	クラウドコンピューティング
オリンピック	イブシロンロケット	スマートフォン
4Kテレビ	電子書籍	TTP
自動車の自動運転	ポスティングシステム	MRJ
検索エンジン	新幹線	OS
ハロウィン	青色LED	SNS
姫路城	シェールガス	医療介護制度
重粒子線治療	手術ロボット「ダヴィンチ」	遠隔診断
3Dプリンタ	ふるさと納税	耐震偽装問題
ドローン	ウェアラブルデバイス	小惑星探査機「はやぶさ」
重力波検出	気象衛星ひまわり8号	宇宙ステーション補給機「こうのとり」

図3 2015年度 総合演習課題テーマ一覧

2番 13班 テーマ「マイナンバー制度」

3 13班の評価記入してください。
○ A ○ B ○ C ⊗ No answer

4 13班の発表に対しての自由記述

3番 14班 テーマ「スマートフォン」

5 14班の評価記入してください。
○ A ○ B ○ C ⊗ No answer

6 14班の発表に対しての自由記述

4番 9班 テーマ「3Dプリンタ」

7 9班の評価記入してください。
○ A ○ B ○ C ⊗ No answer

8 9班の発表に対しての自由記述

図4 学生ピアレビュー画面

し、学生は客観的な意見を確認することができる。レビュー結果の画面を図5に示す。この結果をもとに講義後レポートとして「総合演習課題発表後レポート」を作成し、自己評価と比べて、他者からの評価はどうだったかを記載している。

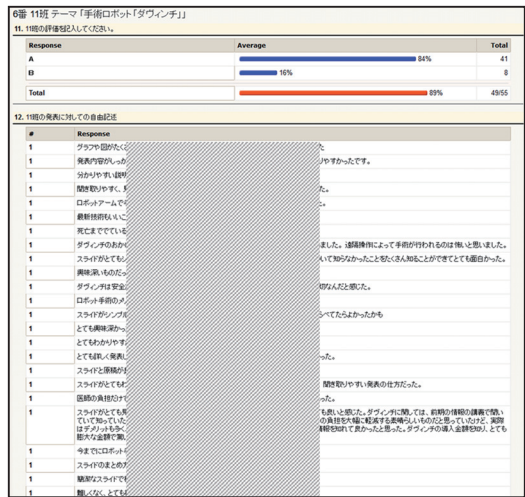


図5 学生ピアレビュー結果画面

3. 結果

発表を行った14グループに対し、712の回答があり、うち自由記述があったものが579 (81.3%) となった。これらの内容を川喜田⁴⁾によるKJ法を参考にカテゴリー生成を行った。KJ法とは、蓄積された情報から関連するものを整理し統合する手法である。表1にはそれぞれのカテゴリーの定義と回答数、全体における割合、代表的な回答を示す。代表的な回答となる学生コメントは集計した自由記述から抜粋し、文体を加工している。17の小カテゴリーを元に、「発表内容に関する」「発表態度に関する」「スライドの出来に関する」「質疑応答・その他」の4つのカテゴリーに分類した。

A. 「発表内容に関する」カテゴリー

「テーマに関する聞き手の理解度」「調査深度に関する・理解度に関する」「統一性・まとまっ

表1 分類カテゴリーの定義および代表例と該当数・該当率一覧

カテゴリー	該当数	該当率	小カテゴリー	定義	例	該当数	該当率
発表内容に関する	376	52.8%	テーマに関する聞き手の理解度	聞き手が各グループのテーマの内容を理解できた	私自身が(テーマ)について理解が薄かったので、この班の発表を見て理解することができたので良かった。	278	39.0%
			調査深度・理解度に関する	詳しい調査内容だったか発表者が内容を理解していた	既知の事柄と新たに知った事柄との区別がつけやすかった。	70	9.8%
			統一性・まとまっている	情報がよく整理されていた	難しいテーマだが、わかりやすくまとめられていたと思う。	28	3.9%
発表態度に関する	163	22.9%	声の大きさ・聞きやすさ	発表の声が大きかった・小さかった	発表者がはきはきしていて、とても分かりやすかった。	48	6.7%
			発表のテンポ	発表のテンポが良かった・悪かった	原稿を読むのに棒読みでなく、強弱をつけていたように感じたので聞きやすかった。	48	6.7%
			ミスの少なさ	ミスが少なかった・多かった	スライドの切り替えがちょっと上手にいらなかった。	19	2.7%
			スライドとの同期	発表内容とスライドがうまく同期していた	発表者とスライドの息が合っていて見やすかった。	27	3.8%
			発表の工夫	発表に工夫が見られた	発表の仕方にユーモアと工夫がありとても興味の惹かれる内容だった。	14	2.0%
			発表時間	発表時間を守っていた・守っていなかった	時間配分の計算が素晴らしかった。	7	1.0%
スライドの出来に関する	292	41.0%	見やすさ・文字の大きさ	スライドがみやすい、字の大きさが適切だった	大切な部分の文字を大きくしたりなど、工夫がされてよかった。	100	14.0%
			図・表・画像	図や表、画像が効果的に使用されていた	二つの方式について、図で示してあり、とても分かりやすかった。	80	11.2%
			デザイン・色使い	デザインや配色などが優れていた	スライドに、絵や色などをたくさん使っていて分かりやすかった。	52	7.3%
			動画・アニメーション	動的コンテンツを効果的に使用していた	スライド中で動画を用いていたのは大変よかった。	32	4.5%
			スライドの枚数・情報量	スライド枚数が多かった・少なかった	スライドの情報量が適切だった。	25	3.5%
			誤字・脱字	誤字・脱字がみられた	誤字があったように思った。	3	0.4%
その他	49	6.9%	質疑応答	質疑応答にうまく対応できていた	質疑応答にしっかりと答えられていたので、よく調べられていると思った。	42	5.9%
			その他	その他	班の協力がもつとあるとよかった。	7	1.0%

ている」から形成されており、発表内容やテーマへの調査内容など、主として発表原稿に対する評価のコメント群である。該当するコメントの回答数は376、全回答数との割合でみると52.8%と、カテゴリーの中でも最も大きな割合となっている。以下は小カテゴリーごとに着目する。

A 1 「テーマに関する聞き手の理解度」

発表テーマに対して聞き手が内容を理解できた、もしくはできなかったなどのコメントで形成される。全小カテゴリーの中でも278と最も該当数が多い(39.8%)。例としては「私自身が

(テーマ)について理解が薄かったので、この班の発表を見て理解することができたので良かった。」「話の内容が難しく頭に入ってこないところがあった。」「(テーマの内容は) 将来、医療従事者になるにあたって、大切なことだなと思った。」などのコメントがある。

A 2 「調査深度・理解度に関する」

発表テーマに対し発表者が詳しい調査内容を提示できた、発表者が内容を理解していたなどのコメントで形成される。該当数は70 (9.8%)である。例として「既知の事柄と新たに知った事柄との区別がつけやすかった。」「(テーマ)に

関する背景などがよく説明されていた。」「細かいところが調べきれていないのかなと思った。」などのコメントがある。

A 3 「統一性・まとまっている」

収集した情報がよく整理されていた、情報の統一性が優れているなどのコメントで形成される。該当数は28 (3.9%)である。例として「(テーマ)で出来ることなど、まとめられていて聞きやすかった。」「短い時間を上手く使ってまんべんなく説明されていて、文章にもメリハリがあったのでわかりやすかった。」などのコメントがある。

B. 「発表態度に関する」カテゴリー

「声の大きさ・聞きやすさ」「発表のテンポ」「ミスの少なさ」「スライドとの同期」「発表の工夫」「発表時間」から形成されており、発表態度や時間配分など、主として発表態度に対するコメントである。このカテゴリーに該当する数は163、全回答数との割合で見ると22.9%である。

B 1 「声の大きさ・聞きやすさ」

音量、滑舌が安定しているなどのコメントで形成されている。該当数は48 (6.7%)である。例として「発表者がはきはきしていて、とても分かりやすかった。」「いい声だった。」「発表者の声が小さくて聞き取りにくかったので、もう少し大きな声だったらよかったなと思った。」などのコメントがある。

B 2 「発表のテンポ」

発表のスピードが安定しているなどのコメントで形成されている。該当数は48 (6.7%)である。例として「ゆっくりと発表していて聞きやすかった。」「原稿を読むのに棒読みでなく、強弱をつけていたように感じたので聞きやすかった。」「発表にもう少し抑揚があるともっと良かった。」などのコメントがある。

B 3 「ミスの少なさ」

プレゼンの最中のミスの少なさと定義しているが、実際はミスがあったグループに対しての

意見としてのコメントとなっている。該当数は19 (2.7%)である。例として「スライドの切り替えがちょっと上手くいってなかった。」「読む人はもう少し練習が必要だと思った。」などのコメントがある。

B 4 「スライドとの同期」

発表とスライド操作がうまくマッチしているなどのコメントで形成されている。該当数は27 (3.8%)である。例として「発表者とスライドの息が合っていて見やすかった。」「口頭での質問が多くて内容が頭に入りづらかった。」などのコメントがある。

B 5 「発表の工夫」

発表中の工夫がなされているかなどのコメントで形成されている。該当数は14 (2.0%)である。例として「発表の仕方にユーモアと工夫がありとても興味の惹く内容だった。」「スライドを読んでいるだけのような感じがしたので、もっとコメントがあるといいと思った。」などのコメントがある。

B 6 「発表時間」

発表時間の活用についてのコメントで形成されている。該当数は7 (1.0%)である。例として「時間配分の計算が素晴らしかった。」「短い時間を上手く使ってまんべんなく説明されていた。」などのコメントがある。

C. 「スライドの出来に関する」

「スライドの見やすさ・字の大きさ」「図・表・画像」「デザイン・色使い」「動画・アニメーション」「スライドの枚数・情報量」「誤字・脱字」から形成されており、スライドのデザイン性や見えやすさなどのコメントである。このカテゴリーに該当する数は292、全回答数との割合で見ると41.0%と、「発表内容に関する」カテゴリーに次いで2番目に大きなカテゴリーとなっている。

C 1 「スライドの見やすさ・字の大きさ」

スライドに表示されている文字が視認できて

いるか、わかりやすいかなどのコメントで形成されている。該当数は100 (14.0%)と、小カテゴリーの中で2番目に多い。例として「大切な部分の文字を大きくしたりするなど、工夫がされてよかった。」「スライドがすっきりしていました。」「スライドの文字が見づらいところがあった。」などのコメントがある。

C 2 「図・表・画像」

スライド内の図や表、画像が効果的に使用されているかなどのコメントで形成されている。該当数は80 (11.2%)である。例として「図とイラストとが合わさって理解しやすかった。」「二つの方式について、図で示してあり、とても分かりやすかった。」「(テーマ)の全体像の写真が無かったため、イメージが上手く浮かばなかった。」「写真があると良かったかなと思った。」などのコメントがある。

C 3 「デザイン・色使い」

スライドの背景色や文字の色、色使いが効果的などのコメントで形成されている。該当数は52 (7.3%)である。例として「スライドに、絵や色などをたくさん使っていて分かりやすかった。」「絵や背景のデザインが(テーマ)にぴったりでとても見やすかった。」「スライドが色合いのせいで少し見えづかった。」などのコメントがある。

C 4 「動画・アニメーション」

動画やアニメーションなどの動的コンテンツが有効に活用できているかなどのコメントで形成されている。該当数は32 (4.5%)である。例として「スライド中で動画を用いていたのは大変よかった。」「アニメーションが有効に活用されていた。」「動きが少ないと感じた。」などのコメントがある。

C 5 「スライドの枚数・情報量」

スライドの枚数や、1枚のスライドの中に、適切な情報量が提示できているかなどのコメントで形成されている。該当数は25 (3.5%)であ

る。例として「スライドの情報量が適切だった。」「数枚スライドの書かれている量が多いかなと感じるところがありました。」「スライドの数が少し少なく感じた。」などのコメントがある。

C 6 「誤字・脱字」

誤字や脱字があった際の指摘としてのコメントで形成されている。該当数は3 (0.4%)である。例として「誤字があったように思った。」などのコメントがある。

D. 「その他」

上記3カテゴリー以外のコメントとして、「質疑応答」「その他」がある。該当数は42 (5.9%)である。

D 1 「質疑応答」

質疑応答がうまく対応できたかなどのコメントで形成されている。例として「質疑応答にしっかりと答えられていたので、よく調べられていると思いました。」「質疑応答にも対応できてよかった。」「もっと質問を予測して調べてほしいかった。」などのコメントがある。

D 2 「その他」

主語が不明、明確なことばになってない、顔文字や記号などで形成されたものはその他としている。該当数は7 (1.0%)である。

4. 考察

4.1. 情報リテラシー教育への協調学習の導入について

情報リテラシー教育への協調学習の導入によって、限られた期間内での実習全体の復習および応用力が向上し、コミュニケーション能力の育成に効果がみられるか考察する。

- 総合演習課題開始の直前に、同学科の卒業年次生による卒業研究発表会を聴講している。事前に先輩による質の高い発表を見ることにより、効果的なプレゼンテーションを行うための動機付けになる。

- テーマを比較的身近なものや、学科の学習に関連したものを設定しているために、短時間での学生間の情報共有が可能となっている。講義終了後のアンケートにおいても「自分たちの発表や他のグループの発表を通じて様々な分野のことについて理解を深めることができてよかった。」「今後役に立つ課題を調べて自分たちの知識を高めることができたので、とても良かった。」など、プレゼンテーションの評価だけにとどまらず、テーマから得られた知識の共有について触れた自由記述が見られ、深い協調学習の効果が見られた。
- ピアレビューをMoodle上で行い、リアルタイムでの相互評価を可能とした。さらに、学生同士のピアレビューをMoodleで共有できるようにするなど、モチベーションの向上を図る。2015年のピアレビューのコメント回答率は81.3%で、学生が高いモチベーションを持ちピアレビューが行われた。

以上の点において、この授業設計は情報教育において有効であると考えられる。その上で、講義の総まとめとなる総合演習課題において、学生がプレゼンテーションに対してピアレビューを行う際の着目点、評価するポイントを明確にすることにより、学生への指導効率向上を目指す。現在、情報科学実習はパソコンなどの情報端末を設置した実習施設を利用して実施しているが、本学は学内の無線LAN環境も整っているため、LMSをノートパソコンやモバイル端末から操作することにより、他の講義においてもLMSを活用した協調学習を、通常の教室で行うなどの応用も考えている。

今後の課題として、協調学習の効果の測定を行い、学生の学習前と学習後のグループ学習における意欲や意識を調査し、検討したい。

4.2. 学生の評価基準について

本研究では、学生がプレゼンテーションを評

価する際の評価基準の分類を試みた。その結果、大きく4つの分類がなされ、最も多くのコメント数が集まったものは発表内容に関するコメントであり、次いでスライドの出来に関するコメント、発表態度に関するコメントとなっている。小グループごとで検討した場合、テーマに対する聞き手の理解度が最も多くのコメント集団となっており、次いで見やすさ・字の大きさ、図・表・画像となっている。

総合演習課題では、学生の総合評価を数値化(総合評価Aを2点、Bを1点とし、平均を算出)し、順位をつけている。図6に、順位ごとに集まった自由記述のカテゴリーごとのコメント数をグラフ化したものを示す。

グループごとにカテゴリーAもしくはカテゴリーCのどちらかに特筆してコメント回答数が集中していることが確認できる。特にカテゴリーCのコメント回答数が多いグループに上位順位のグループが集中していることも確認できる。また、カテゴリーBにおいて、学生の評価が最下位のグループのみコメントが集中しているが、これは発表中にトラブルが発生し、スムーズに発表できなかったためと思われる。

今後、今回分類されたカテゴリーを元にした評価基準によるルーブリックの作成など、学生のピアレビューの際の円滑化や評価の明確化が期待される。

5. まとめ

協調学習を導入したプレゼンテーションのピアレビューにおいて、敢えて教員が評価基準を設けず、自由記述によって自らの評価対象を記述させることにより、独自の評価基準が明確になった。学生の評価基準として最もコメント数が多かったカテゴリーは発表内容が理解しやすいかであり、次いで効果的な発信、つまりプレゼンテーション技術としてのスライド作成、そして口頭での発表力であることが分かった。情

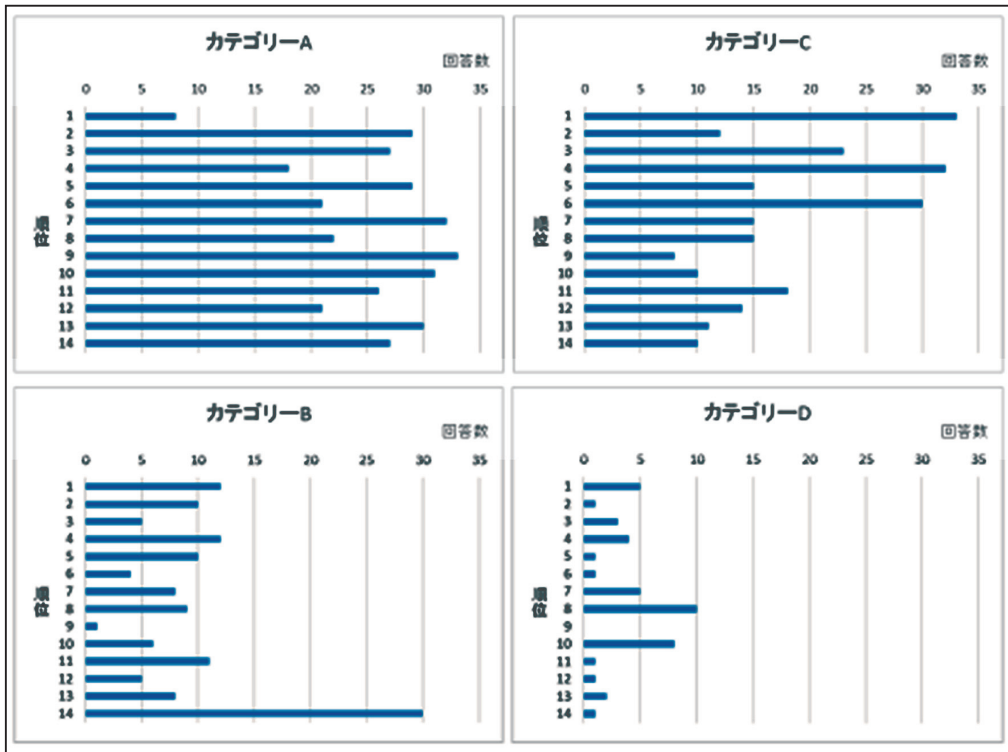


図6 カテゴリーごとの順位別コメント数

報科学実習は、限られた期間内での実習全体の復習および応用力、コミュニケーション能力の育成のため、Webを利用した情報の収集、ソフトウェアを利用した情報の保存や加工、そして効果的な発信を目指した授業設計をしており、総合演習課題はこれら情報を処理する一連の過程をすべて網羅することを目指している。特に、情報の発信能力の育成のためには、発信した情報の評価を学生各自が行えることは必須である。今回、高評価のグループにはカテゴリーC、つまりスライドの評価が多いことが分かったが、全体でみるとカテゴリーAの発表内容に対するコメントが多い。つまり、学生間の相互評価で高評価を得るためには、発表内容の精査はもちろん、ある程度のスライドのデザイン性が必要になる。

情報の伝達、とくにプレゼンテーションの技術では確かにスライドの効果的な作成は有効な

手段であると考えられるが、限られた時間の中での実習で、教員は何を優先して指導すべきか、状況に応じた対応が必要である。

参考文献

- 1) 稗田隆, 河野圭太, 岡山聖彦: 反転学習とグループを組み合わせた多人数eラーニング講義の実践, 第18回学術情報処理研究集会発表論文集: 45-50, 2014
- 2) 池村努: プレゼンテーション授業における相互評価に関する事例報告, 教育システム情報学会第38回全国大会講演論文集: 377-378, 2013
- 3) Moodle公式サイト <https://moodle.org/> (2015. 9.1)
- 4) 川喜田二郎: 発想法-創造性開発のために, 中公新書: 1967